

2019年度 決算報告

2020年7月10日、第168回組合会において2019年度事業報告ならびに収支決算が承認されました。

- 義務的経費（法定給付費+納付金）に保険料の93.37%を支出
- 経常収支で約4億円の赤字に

健康保険

その他
17億100万円

別途積立金の取り崩し5億円、前年度からの繰越金2億円などで収入不足を補いました。

その他経常収入
3億3,400万円

前年度比
+4.72%

保険料
154億4,000万円

経常収入合計
157億7,400万円

経常支出合計
161億7,200万円

収入
174億7,500万円

支出
164億8,400万円

9億9,100万円の黒字
経常収支は3億9,800万円の赤字

財政調整事業拠出金、他
3億1,200万円

財政調整事業拠出金とは、高額医療の発生および財政窮迫組合に対し健保連が助成を行うため、調整保険料を財源とする拠出金。

その他経常支出
3億1,500万円

保健事業費
11億7,700万円

健診・特定保健指導などの疾病予防事業をはじめとする、健康管理・健康づくりのための費用。

前年度比
+1.32%

納付金
55億4,900万円

国の高齢者医療制度へ拠出した負担金。

前年度比
+1.38%

保険給付費
91億3,100万円

法定給付費やIBM健保組合独自の付加給付など。

介護保険

繰越金
8,000万円

介護保険収入
25億3,700万円

準備金1億円
次年度繰越金1億6,800万円

一般勘定繰入
3億5,000万円

介護保険料還付金
100万円

介護納付金
19億9,900万円

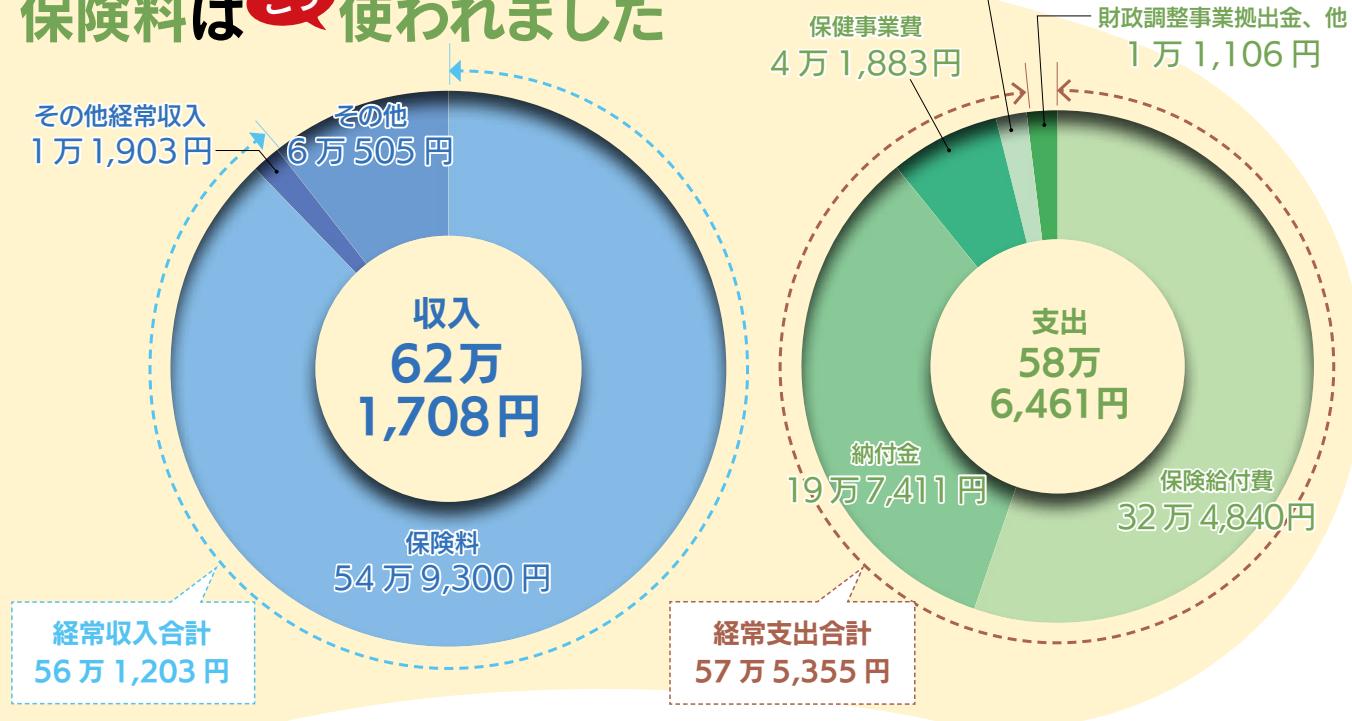
収入
26億1,700万円

支出
23億5,000万円



被保険者 1人当たりで見ると…

保険料はこう使われました



2019年度に実施した主な事業

1. 適用・給付事業

- ①医療費通知による保険給付適正化
- ②ジェネリック医薬品の利用促進
- ③重複・頻回受診者に対する啓蒙
- ④レセプト点検業務
- ⑤傷病手当金の適正な支給

- ⑥柔道整復療養費の適正化
- ⑦被扶養者資格確認調査の実施

2. 保健事業

- ①データヘルス計画の実行・評価・見直し（第2期2年目）
- ②特定健診および特定保健指導の定着と推進（第3期2年目）
- ③情報システムの活用および改修

2019年度に実施した事業の効果

ジェネリック医薬品の利用促進

厚生労働省は2020年9月までに80%以上とする目標を掲げています。当健保はこの目標値まであと2.8ポイントとなっています。

柔道整復療養費の適正化

接骨院・整骨院において、健康保険適用となる施術は限定されている事を理解いただくため、啓蒙活動を推進しています。また、柔道整復師等の不正請求を阻止すべく、請求書等の検証を厳しく行っています。

